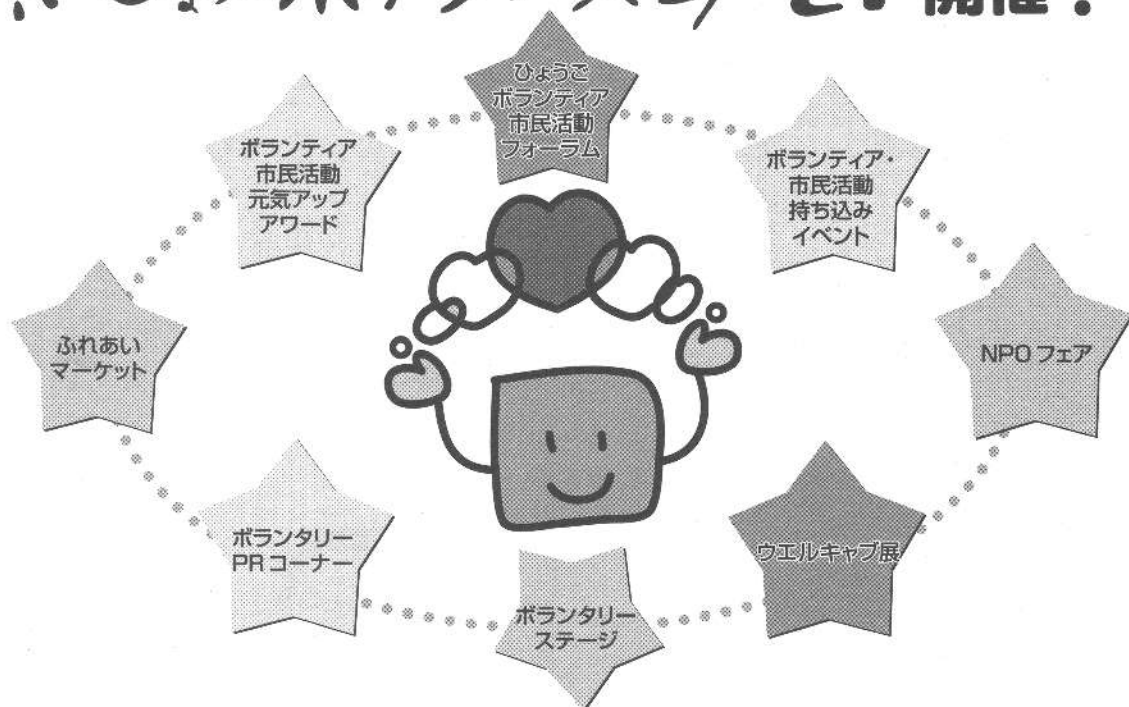


3つの会場で8つのひろば

# 3rd ひょうごボランティアスクエア21! 開催!



平成 15 年 1 月 25 日 (土)・26 日 (日) の両日にわたり、JR 神戸駅周辺にて「第 3 回ひょうごボランティア・スクエア 21」が開催されました。このイベントは、阪神・淡路大震災を契機に大きな盛り上がりとなったボランティア活動のさらなる広がりを目指し、地域・分野・セクターを越えて団体が交流・情報交換する機会となるもので、今年が 3 年目となります。これまでの活動や画期的な企画提案に対してアワードが贈呈されるボランティア・市民活動元気アップアワード、「ひょうご発! NPO と拓く市民社会の創造」をテーマとしたひょうごボランティア・市民活動フォーラム、県内の様々な NPO の情報をアピールする NPO フェアほか、ウェルキャブ展、ふれあいマーケット等、「3 つの会場で 8 つの“ひろば”」と題して 8 つのイベントが、NPO・行政・企業・労組等県内の 31 団体が構成する実行委員会で開催し、両日で約 2 万人の方々にご参加いただきました。

本号では、兵庫県内の様々なボランティア活動団体が主役のイベント、第 3 回ひょうごボランティア・スクエア 21 の特集をお届けいたします。

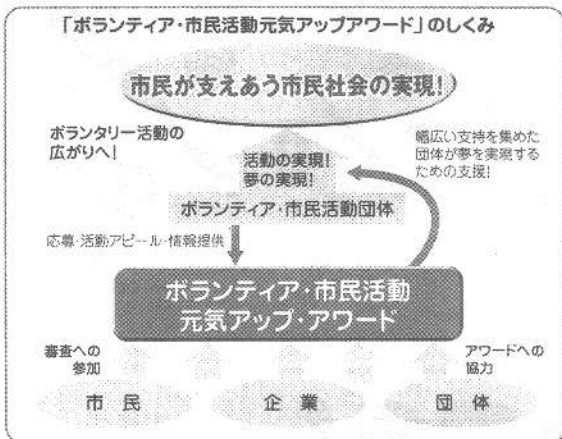
## Contents

- P1-6 特集「3つの会場で8つのひろば ひょうごボランティア・スクエア21開催!」
- P7 ボランティアセクターを支える「神戸大学総合ボランティアセンター」
- P8 「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済」(ボランティア保険)のご案内

# ひろきボランティアスクエア21

ボランティア・市民活動元気アップアワード

～市民・企業・団体とボランティア活動団体の  
コラボで夢の企画が実現！～



このアワードのユニークな点は、ボランティア・市民活動を支えようという市民・企業・団体が協賛金を募集し、これを原資にして、ボランティア団体のユニークな企画やこれまでの地道な活動実績に対して賞を与えるという仕組みをとっているところです。賞には二コース

「ボランティア・市民活動元気アップアワード」は、スクエアのメインイベントとして位置づけられ、今年で三年目を迎える取り組みです。県内のボランティア・市民活動団体二二二団体から応募があり、一次審査を通過した三十四団体が当日会場で活動PRを行いました。

あり、これまで継続的に取り組んできた活動に対して贈られる活動実績評価型の「こっこっコース」と、従来の実績重視の助成金制度では支援が難しかった「これから取り組もうとする事業等」を支援する「元気アップコース」です。まだ活動経験が浅い団体でも、このアワードで実現性のある画期的な企画提案を行い、審査員の多くの支持を集めれば、最高額百万円が贈られます。受賞団体は、賞金をもとに提案した企画を実施し、応援者・市民に対して企画実施報告を行います（二〇〇三年末予定）。

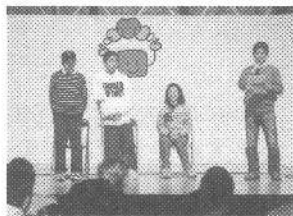
また、「この団体を支援したい」という市民がアワードに参加できるしくみである「一般投票（こっこっコース）」を行っていることも、このアワードの特徴です。市民がボランティア・市民活動に接し、活動を支援・支持する仕組みづくりを推進しているのです（図参照）。

市民・企業・団体がアワードの原資を提供したり、応募団体のアピールを受け、一人ひとりが応援したい団体に投票することで、幅広い支持を集めた団体がアワードを受賞し、今後の活動への活力を得て、夢を実現していくこの仕組みは、多くの市民・企業・団体と活動団体の共通の「夢」を実現していく、コラボレーション（協働）の二つのあり方であるといえるのではないのでしょうか。

## 元気アップコース (企画提案型)

大賞1団体100万円、元気アップ賞4団体20万円

これまでの活動のアピールと2003年に企画している、新たな企画を提案し、企画内容の「画期性」「実現性」「提案力・アピール性」を審査員10名が審査。1次審査を通過した5団体が、1月26日(日)14時～15時にパワーポイント等を用いたステージ発表を行いました。



ひろきボランティア・スクエア21  
実行委員長  
同志社大学教授 立木 茂雄

市民が身近な公共を自らの手で紡ぎだすボランティアな活動を、より大きなものにより当たり前のものにして、そしてより市民主導のものにしていきたい。そんな思いで始めたボランティア・スクエア21も今年で第三回目を迎えました。二日間にわたるこのイベントの特徴は、「誰が、どのような催

## ひろきボランティア・スクエア21の開催について

しを、どのように行うのか」といったイベントの様々な決定も、ボランティアな立場で集まったスクエア実行委員会の手で決める点にあります。そして、この民主導の実行委員会に行政や企業も参加する、という流儀を続けてきました。今年度も多種多様な人たちが実行委員会に参集し、それぞれの立場や考え方の違いを大切にすることによって、創造的な即興や学びが生まれ、公的な精神が高まる瞬間を体験することができました。

元気アップアワード、ボランティア・市民活動フォーラム、ボランティアひろばといった当日のそれぞれのイベントでも、ネットワークによる公共性の紡ぎだしは、一見脆弱に見えながら、実はしなやかで強いことが示されました。

## こっこっコース (活動実績評価型)

大賞1団体20万円、優秀賞10団体10万円、こっこっ賞5万円18団体

団体結成時から現在までの活動実績を発表、「継続性」・「生活・コミュニティへの密着度」を審査。1次審査を通過した29団体が、ブース発表(1月25・26日)、及び口頭発表(1月26日)を行いました。



※こっこっコースは、審査員の投票の他に、来場者が受賞団体を選ぶ一般投票を実施し、両日で413票の一般投票がありました。

次ページでは、各コースの大賞受賞団体をご紹介します。

# ボランティア・市民活動元気アップアワード 大賞受賞団体紹介

## 元気アップ大賞

だんごの会 (神戸市垂水区)

受賞対象事業

「ストヘル(ストリートヘルパー)育成プロジェクト」

障害のある子どもたちの多くは、放課後や休日に家族とばかり過ごすことが多く、他の中学生や高校生のように、友人等の人間関係がなかなか築きにくい状況にあります。だんごの会は、スタッフ二名、会員二〇名の組織で、障害のある子どもたちやその家族の支援を目的に、子どもたちが様々な人と経験を共にし、豊かな人間関係を築いていくと共に、社会生活の主体として自信を得ていくための支援活動を行っています。また、これらの活動は、障害のない子どもたちにとっても、障害のある子どもとの交流を通じて障害を自然に受け入れ、豊かな人間性を育んでいく機会にもなっています。

今回のアワードで大賞を受賞した企画は、兵庫県在住の中学生・高校生を、同世代の障害のある子どもたちと一緒に外出する「ストリートヘルパー」として育成する「ストヘル育成プロジェクト」です。夏休みなどの長期休暇に、中高・養護学校生を対象に、外出を支援するストリートヘルプ活動の体験合宿を行う、というもので、全体で約五十名の参加者を予定しています。体験合宿実施に向け、実行委員会を組織し、開催前から合宿参加者・支援者が参加する準備会を毎月開催します。合宿後も、参加者に対してストリートヘルプの機会を定期的に提供する予定とのことです。

一連のプロセスを経験し、ストリートヘルプの活動を通して、子どもたちの間にみんなと同じ人間として共に生きる意識が育ち、将来的には誰もが安心して暮らせるまちづくりを進める人材へと成長していく。だんごの会の活動は、「ノーマライゼーション」の社会を実現する人材の育成」であるともいえるでしょう。

## グリーン大賞

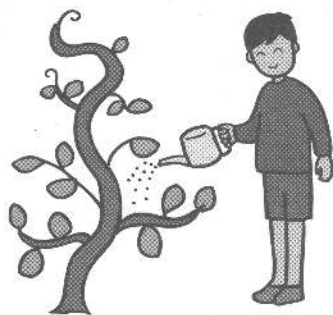
ドングリネット神戸 (神戸市長田区)

活動内容

「ドングリを自然への窓口とした、楽しみながら永く続けられる緑化活動」

子どもたちのころ、ドングリを拾い集めたり、コマにして遊んだ人は多くいるでしょう。ドングリネット神戸は、誰もが身近な「ドングリ」をきっかけに、市民が楽しみながら自主的に街の緑を育てることに関わることでできる仕組みを提供している団体です。ベースは「ドングリ銀行神戸」の活動で、参加者は、秋にドングリを集めて通貨として「預金」し、春に樹木の苗木で「払い戻し」をうけ、自宅や公園などで植樹活動を行っています。活動の主な参加者は京阪神間に住む子どもとその家族、学校等ですが、苗木を育て、提供する「プラントマスター」としては中高年層が多く、未来のよりよい環境づくりに向け、世代を越えた活動となっています。

子どもから大人まで、地域から学校まで、様々な人が様々な場で緑化活動のプロセスに参加することで、一人ひとりが「受け身」ではなく、緑のまちづくりの主人公となっていきます。ドングリネット神戸の最終的な目標は、「この街の街にみんなで森をつくらう!!」



ひょうごボランティア・市民活動フォーラム

「ひょうご発！NPOが拓く市民社会の形成に向けて」

平成二五年一月二五日（土）  
クリスタルホール（神戸クリスタルタワー三階）で開催した、「ひょうごボランティア・市民活動フォーラム」を開催しました。そこで、基調講演とパネルディスカッションの概要を紹介します。  
（敬称略）文責／ひょうごボランティアプラザ

基調講演 片岡利文

私の担当したNHKスペシャル「変革の世紀」の第五回「社会を変える新たな主役」の取材・ロケを通しての素朴な実感をお話できればと思います。

番組では、三〇階の高層ビルをNPO六〇団体がまちづくり活動などの拠点にしているピッツバークや、高給を捨て、仕事に恵まれない人々への職業訓練に従事するミネアポリスの元企業重役などアメリカの実例、行政による福祉政策がボランティア活動を窒息させた歴史の反省から、NPOをパートナーとする協働に力を入れているブレア政権下のイギリス、さらに公共政策の大転換を試みる旧社会主義国ハンガ

リーの姿を紹介します。

「ハンガリーの二%制度」

今回の番組で最も反響が大きかったのが、六年前から始まったハンガリーの「二%制度」でした。これは、納税者の希望により、所得税の二%の金額を、約四万のNPOのどれかに寄付できる世界で初めての制度です。二%制度の背景としては、乏しい財源をどの公共部門に向けるのかを国民の選択に委ねると共に、NPOの力を活用しようとしたものです。現在では、納税者の四〇%がNPOへの寄付を選び総額は二〇億円で達しています。

寄付を受けたNPOは、その使途について新聞などで公表することが義務付けられており、納税者はそれを翌年の判断材料とします。二%制度をきっかけに、国民はNPOの活動に興味を持ち、活動に参加したいという人も増えてきました。国民一人ひとりが自らの手で公共を支えようという思いを持つようになってきたのです。「変革の世紀」では、番組と連動してウェブサイトに視聴者の議論の場を設けました。番組放送後、ここに二%制度についての意見が続々

と寄せられたのですが、およそ七割が二%制度を日本にも導入すべきとの意見でした。理由としては、第二にNPOへの市民参加の推進。第一は行政不信、つまり税金の使われ方に対する積もり積もった不信感です。一方、導入に慎重な方々の意見としては、よい制度ではあるが市民意識がそこまで成熟しているかどうか、また行政とNPOとの間で癒着が発生するのではないかという疑念があげられていました。

「キーワードは、選択肢があること」

以上をまとめて、二%制度の特色は三点あると思います。一点目は、税金の一部を納税者が自分の意思でNPOに託すことができること。二点目は、どの公共サービスを必要としているのかを市民としてアピールできること。三%のお金の行方は、教育・保健・医療分野のNPOに集中しています。

三点目は、どのNPOに寄付を託すのかを自分の意思で決め、結果としてNPOの選別にもつながる点です。誰が公共を担うのか。それは自分達から税金を吸い上げている行政の仕事だというイメージを多くの日本人が抱いて

いるのではないのでしょうか。二%制度をはじめ、欧米のNPOを取材して感じたのは、行政に税金を託して任せるだけが公共を支える道ではなく、寄付もしくは参加という形でNPOを通じて公共を支えるというもう一つの選択肢があるという事実です。そして行政ルートを選ぶのか、それともNPOルートを選ぶのか、それを決めるのは私たち市民の意思です。二世紀、しなやかな公共心と自分の頭でものごとを考え抜く力を兼ね備えた市民の存在が、いま日本に求められているのではないのでしょうか。



コーディネーター



ひょうご  
市民活動協議会代表  
野崎 隆一

先ほどの基調講演で、NPOが世界的な潮流の中で、どのようなところにいるのかを明確に示して頂きました。そこで、日本におけるNPOのあり方を考えていく視点から、各パネリストに発言をお願い致します。また、ゲストスピーカーの方々には、NPOとしての課題をお願い致します。

パネリスト

清原 桂子 (兵庫県理事)

阪神・淡路大震災後のさまざまな動きの中で、組織・スタッフを有したNPOがこれだけ広がりを見せてきたことが被災地の大きな経験ではないかと思っています。つまり、公というものを民と行政が共に担っていくという取り組みが大きく進展しました。今後、人・場所・資金・プログラム開発のプラットフォーム、多様な社会の担い手による協働(企業などを含む)のしくみ、いろいろな中間支援組織づくりに積極的に一緒に取り組んでいきたいと思えます。

岡部 一明

(東邦学園大学経営学部助教)

アメリカのNPOの活動に対し、日本では文化・社会の違いからこれまでの発展は無理ではないかという意見を聞きますが、それは震災時の神戸の例のように、目の前のニーズにすぐ手が出るのは人間の本性ですし、それを可能とする体制やシステムづくりには、税制などアメリカの事例が参考になると思います。また、NPOも行政との協働だけではなく、アドボカシー型NPOや社会変革型NPOも大きな役割があります。今後は、市民が社会を動かしていくという大きな流れの中にあることをアメリカでは強く感じました。

椎野 修平

(かながわ県民活動サポートセンター  
ボランティア活動推進担当部長)

中間支援組織には、官設官営、官設民営、民設民営という三つの形があります。その役割としては、NPO自身の自助・NPO相互の共助、NPOと他のセクターの共助をサポートする、と整理することができると思えます。

私どものセンターでは、NPOと行政セクターの共助をサポートする場面で強みが発揮できると考えていますので、協働を具現化する場として「パートナーシップルーム」を運営しています。官民が協働することのメリットは、二十一・二〇という相乗効果が得られることだと考えます。

片岡 利文 (NHKディレクター)

NPOも寄付に頼るだけではなく、自ら活動を継続させていくための財源を生み出す仕組みを構築すべきだと思います。例えば、アメリカのある職業訓練NPOでは、IT技術を身に付けた優秀な人材を企業に送り込む代わりに、その人材の年収の二五%に相当する金額を企業から謝礼としてもらい、次の人材を育てる活動資金にするという仕組みを打ち立てました。智慧を絞ってこうしたシステムを生み出すことの出来るプロフェッショナルが日本のNPOにも必要なのです。

ゲストスピーカー

山崎 勲

(NPO法人 シンフォニー代表)

NPOのミッションを実現していくリーダーやスタッフの質・組織の質の強化が大きな課題であり、社会に向けての情報発信活動や行政との協働事業などを考えても、企業や行政セクターの中でのキャリアを有した人材や専門性・経験の豊かな人材を確保することが急務であると思えます。

吉富 志津代

(NPO 多言語センターFACILE代表)

神戸市長田区は人口に二割が外国人で、私たちは外国人コミュニティの自立支援に取り組んでいます。多様な文化の共生は、市民社会の成熟の重要な指標ですが、NPOの活動自



体は財政的になかなか苦しい。打開の方向として、企業の社会貢献プログラムとの結びつきの強化、コミュニティビジネスとしての自立などによる安定した収入の確保を目指しています。

瀬戸口仁三郎

(NPO法人しみん基金・こうべ専務理事)

助成事業を中心に事業展開をしていますが、この不況下で寄付額も右下がりであり、組織の存続にも影響を与えかねません。原因は、市民の寄付の意識・社会のシステムが未整備である事だと思えますので、税制優遇措置や市民の寄付の文化の土壌作りを行政共々行う必要があると思えます。

野崎 (コーディネーター)

社会システムを市民サイドで変革するコミュニティ・ソリューションと自前主義で市民活動の基盤づくりが求められているように思います。今日は世界の潮流から現実のNPOの動きまで幅広く進めさせていただきました。どうもありがとうございました。

ひょうごボランティアフェア開催!

# 3つの会場で8つのひろば

## デュオドーム 「あったかハート・フェア」

### NPOフェア



(オープニング風景)

NPOや県内のNPO支援機関が市民社会を構築する大きな柱として、様々なNPOの取り組みのPRがありました。NPOフェアを起点に、NPOに関するクイズに答える「クイズラリー」も実施。また、NHKスペシャル変革の世紀「社会を変える新たな主役」のビデオ放映も行われました。

### ウェルキャブ展

障害などを持つ人が自由に使えるウェルキャブに、たくさんの方が、実際に触れ、乗って「バリアフリー体験」！ハンディキャップを持っていても自由に外出できる、バリアフリーな社会づくりって、大切ですね。



## 神戸クリスタルタワー

### ひょうごボランティア・市民活動フォーラム

創造的な市民社会の形成に向け、重要な役割を担うNPOの役割・課題と方向性が、グローバルな視点から議論されました。

(詳細P.4-5)

### ボランティア・市民活動持ち込みイベント



県内のボランティア・市民活動団体の活動交流の場として開催されました。コンサートや子どももともにつくるおもちゃづくりワークショップなどが行われました。

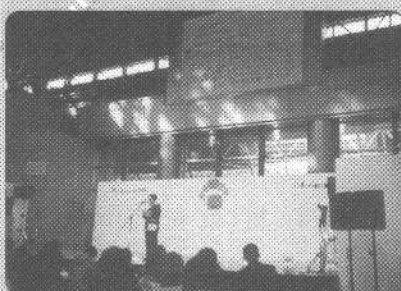
## スペースシアター「ひょうごボランティアひろば」

### ボランティアステージ



市民活動団体やスクエアの趣旨に賛同するパフォーマーたちにより、漫才、アクロバット、ゴスペル、ジャズ演奏、和太鼓など、様々な催しが行われました！

### ボランティア・市民活動元気アップアワード



ボランティア・市民活動団体がこれから取り組もうとする企画の提案やこれまで取り組んできた活動をアピール、支持を多く集めた団体に賞(アワード)が贈られました！

(詳細P.2-3)

### ふれあいマーケット

手・工芸品やパン・クッキーなど、県内の小規模作業所やNPOで製作しているさまざまな物品を販売するコーナー。2日間たくさんの人でにぎわいました！



### ボランティアPRコーナー

県内の様々なボランティア活動団体が、工夫を凝らしたパネルを作成、日頃から取り組んでいる活動をアピールしました。

# ボランティアセクターを支える

## 学生たちが地域を支える「神戸大学総合ボランティアセンター」

### ボランティアセンター設立の経緯

九五年の阪神・淡路大震災後、神戸大学

の学生たちもさまざまなボランティア活動を

を経験しました。その中で、「個人的に活

動するのは限界がある」と痛感した学生数

人がボランティア活動をする機会を提供す

るような場所があれば…と望み、呼びか

け、同年五月には「総合ボランティアセンタ

ー（略して「総ボラ」）を立ち上げました。

震災をきっかけに始まったボランティア活動

も今年で九年目。昨年度は外部依頼が二〇

〇件近くあり、会員数も二〇〇名を越える

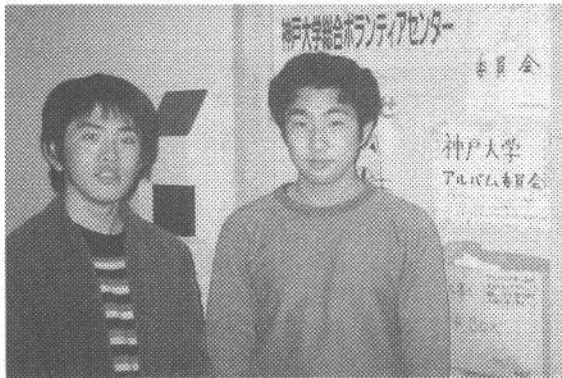
年が続いています（〇二年度は一〇二名）。

自分の関心や熱意の度合いにあわせて関

わるスタンスでセンターの個人会員になっ

た学生たちは好きな分野でボランティア活

動や勉強会に参加しています。それだけで



▲新代表の今村さん(左)と昨年度代表の若菜さん



は物足りない学生は運営局員になってボラ  
ンティアを更に推進していくという仕組み  
で、互いにサポートしあいながら多彩な活  
動を行っています。

### まちづくり、まちぐるみ、地域と共に

「総ボラ」のボランティア活動は多種多  
様で（下記囲み参照）、外部依頼も多く、  
地域での活動も活発です。今では年に一回  
の恒例行事となった「灘チャレンジ（略し  
てナダチャ）」もその一つで、大学と地元  
のためのスケールの大きなお祭りです。

灘チャレンジは、「総ボラ」と神戸大学  
学生震災救援隊という二つの団体に所属す  
る学生が中心となり、地域の人たちと協力  
しながら開催するものです。地域のボラン  
ティア団体や神戸大学のサークルによるス  
テージをはじめとして、模擬店やフリー  
マーケットなどを企画・実施。昨年度は一  
万人を超す人たちが集い、たくさんのお出  
会いと体験を重ねました。地域には、そこ  
に住む人でなければ見えないし、解決できな  
い問題が潜んでいます。そういった問題に

取り組んでいる地域  
の人たちと学生たち  
が集り、みんながよ  
り良く住めるまちづ  
くりに貢献できるよ  
うなボランティア活  
動を今後も続けてい  
きたいと学生たちは  
考えています。

### 総ボラの分野別ボランティア活動

#### ○環境

クリーン作戦、リサイクル目的のフリー  
マーケット

#### ○高齢者

高齢者訪問、入浴介助、家事援助

#### ○国際交流

日本語指導、外国の子どもと文通  
なども

#### ○ベビーシッター、キャンプリーダー

介護、車椅子サッカー、自閉症児の託児  
○まちづくり  
まつり、もちつき

### セクション別ボランティア活動の紹介

#### ○障害者セクション

主に在宅障害者の介護を通して交流。  
○点訳セクション  
点字の読み書きの練習、視覚障害者の  
人たちとの交流。今後は自販機や絵本  
の点訳をしていく予定。

#### ○ヘルプ合

毎週水曜日の午後には王子公園の近くにあ  
る母子生活支援施設「ヘルプ合」の子供  
たちと交流。学生が企画する遠足もある。

#### ○神戸ふれあい工房

障害をもった方々が作った陶芸品や手工  
芸品、お菓子などを販売するお店「神戸  
ふれあい工房」（JR神戸駅近く）でお  
手伝い。

#### ○とんかちボランティア

お年寄りのお家の草抜き、家具移動や、  
お祭りや公園の掃除などの生活支援を  
須磨区で。

#### ○児童館

住之江児童館（東灘区）生田川児童館（中  
央区）で子供たちと交流。昨年度はクリ  
スマス会にて人形劇を催す。

#### ○お茶屋いわや

阪神淡路大震災の復興住宅「若菜北町  
住宅」で住民のみなさんとお茶会。また  
住宅内ボランティアグループ「すずらん  
岩屋」が主催する朝食会「モーニングサ  
ービス」にも参加。

#### ○喫茶HAT

震災復興住宅「HAT神戸」でお茶会。

#### ○まいくん☆チーム

障害をもった小学生の男の子とその家  
族をサポートする活動。

年間掛金500円で  
大きな安心!

## 「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済」(ボランティア活動保険)のご案内

兵庫県ボランティア・市民活動災害共済は、①～③をセットにしたもので、加入されたボランティアの方が“ボランティア活動中”に

- ①ケガをされた場合に「傷害給付」
- ②第三者の身体または財物に損害を与えた場合に「賠償責任給付」
- ③ボランティア自身が活動中(往復途上を含む)に傷害給付の対象とならない事由で亡くなられた場合に「見舞金」をお支払いするものです。

NPO法人やセルフヘルプグループなどの市民活動団体で活動するボランティアも加入できます。

	支払金額	対象になる場合	具体的な例
本人の事故 傷害給付	死亡 21,350千円	ケガのために事故の日から180日以内に不幸にして死亡されたとき	ボランティア活動に向かう途中、車にはねられ死亡した場合
	後遺障害21,350千円 (限度額)	ケガのために事故の日から180日以内に身体の一部を失ったり、その機能に重大な障害を永久に残された場合	外出介助中、誤って階段から転落し、半身不随の障害を負ってしまった場合
	医療 通院1日 5,000円 (90日限度)	ケガのため通院または入院して医師の治療を受けられた場合 ※手術の種類に応じてそれぞれ定められた倍率(10倍、20倍、40倍)×入院保険金日額をお支払いします。 ただし、1事故につき、1回の手術に限ります。	給食サービス活動中、溝に落ち足を骨折した場合
	入院1日 8,000円 (180日限度)		
手術 320千円 (限度額)			
対人・対物事故 賠償責任給付	対人・対物 (共通) 4億円 (限度額)	第三者の身体に損害を与え法律上の賠償責任を負った場合	外出介助中、誤って車いすを転倒させ、利用者を負傷させてしまった場合
	免責 なし	第三者の財物に損害を与え法律上の賠償責任を負った場合	友愛訪問活動中、訪問先の花瓶を誤って割ってしまった場合
見舞金	死亡 500千円	活動中、ボランティア自身が死亡し、傷害給付金支払いの対象とならない場合	ボランティアの研修に参加している途中、気分が悪くなり病院に運ばれたが、心不全で翌日亡くなられた場合

- 掛金 1名につき**500円**(いずれの時期に加入しても500円です)
  - 補償期間 毎年4月1日から翌年3月31日までです。  
4月1日以降の加入は、受付窓口の市区郡町社会福祉協議会が受け付けた翌日から加入できます。
  - 加入できる方 ①ボランティア活動に参加する方(自らの意思で自発的に活動に参加される方に限ります)  
②NPO・ボランティア推進機関の役員・活動者(ただし、有給(最低賃金を目安)職員は加入できません)。  
※①、②とも市区郡町社会福祉協議会に登録していることが要件となります。
  - 加入方法 所定の用紙にご記入のうえ、掛金と加入者名簿を添えて、最寄りの市区郡町社会福祉協議会のボランティアセンターへお申込ください。
- ※詳細は、最寄りの市区郡町社会福祉協議会のボランティアセンターまでお問い合わせください。

### ひょうご地域通貨フォーラム(仮称)

地域通貨に取り組む県内の団体による発表のほか、地域通貨の課題などについて議論し、交流します。

- ◆開催日 3月22日(土) 10:00～
- ◆場所 神戸クリスタルタワー3F  
クリスタルホール
- ◆問合せ ひょうごボランタリープラザ  
TEL078-360-8845